

第4回鳥海山検討委員会における指摘事項と対応

資料1

委員	指摘事項	対応	計画書該当P
林委員	火口噴出型泥流の可能性もあることを計画に明記する必要がある。	想定現象に火口噴出型泥流について明記。	P31 表2-5 P42 表2-12
	緊急ハード対策に関するタイミングについて、資料内で整合がとれていない部分がある。	前兆期の段階で除石に着手することを資料内で修文。	P74図3-1 P101図4-8 P122図4-22
植木委員	融雪可能水量の算出式で融雪水の体積を求めるためには密度比を乗じる必要があるのではないか。	融雪水量の算出式に密度比と融雪寄与率の係数を追加。	P57
林委員、時田委員、横山委員	住民や登山客への警戒避難情報の提供が課題。	住民や登山客への情報周知の徹底に関して連携、支援する必要性について明記。	P127
井良沢委員	融雪型火山泥流の融雪量算出精度向上のため積雪量を平常時から計測することが望ましい。	平常時準備事項の項目として、積雪分布等の各種データの蓄積について追記。	P124
石塚委員	2年確率土石流で氾濫しないのであればより規模の大きな土石流の影響範囲を示すべきであるとの指摘があった。	参考資料に、繰り返し土石流による氾濫範囲を掲載。	P133
井良沢委員	緊急調査時のUAVの活用や、ソフト対策として平常時からの訓練や防災教育の手法について具体的な説明を加えることが望ましい。	緊急調査におけるヘリ調査の項目にUAVの活用について記載。また、平常時準備事項に火山防災情報の周知啓発の項目を追加し、防災教育の支援や防災意識の向上に関わる活動について、火山対策以外の分野の防災に関する取組みについて例示。	P120、P129、 P137
長井委員	タイムラインの表現について、必ず提示されているように前兆から順当に発生するかのように受け取られないように表現を工夫すること。	タイムラインに「前兆現象が検知され水蒸気爆発からマグマ噴火に順当に推移した場合の例」と追記し、参考資料に前兆現象が得られなかった場合などの例を追加。	P122、P135